

第6回光市まちづくり市民協議会 教育・地域部会

日時：令和3年8月3日（火）18：30～20：05

会場：光市役所3階 大会議室 1・2・3号

出席者 委員 12人（欠席5人）
事務局 6人

1 事務連絡

事務局による委員変更の案内、資料の説明、前回会議の質疑への回答

2 議題

(1) 第3次光市総合計画（分野別計画）について

●委員

光市の教育の大きな特徴としては、連携・協働教育ということで長年に渡って取り組んできて、コミュニティ・スクールを県に先駆けて取り組んで来たという実績があり、更に様々な課題解決を図るために小中一貫教育を今進めているところ。

先日、浅江小学校、中学校で総勢120人が集まり、浅江小学校の教室に分かれて、全部で8教室ぐらい使って、リモートで熟議を行った。地域の方や保護者の方の意見を聞くと、やはりその連携・協働教育の成果として子どもたちの表情がとにかく明るくなったと、そしてそれが学校内だけでなく地域でもそういう姿を見られるようになったという、長年約10年近く取り組んできた成果を直接声としていただいた。

正直、ハード面での教育環境整備というのは、他市に比べると、というのがあがるが、やはりソフト面での充実というのは本市の強みだと改めて感じたところ。この度のこの計画の中にもそういうソフト面が重要視されている。という印象を受けた。これは光市教育の根幹の部分だと思うので、学校に関わらず地域づくりでも、やはり「人づくり」が凄く重要だと思う。教育の世界でも、教員の人材育成は喫緊の課題となっている。やはり地域づくりにおいても地域を支える人材育成というのが、大きなこれからの光市のテーマになると思う。コミュニティ・スクールの仕組みは、実は地域人材を育てるための、大きな目標もある。将来、地域住民となる小中学生がふるさとをこよなく愛して、そしてふるさとのために貢献したいという子どもたち、人を育てていくという大きな目標があるので、やはり光市としては、そのソフト面は充実してきたことを今後も活かして、「人づくり」の部分を、より教育も含めて、重要視する計画を作っていく、それが他市にはない本市の特徴、良さ、として築いていくと良いと思っている。

私も長年教育に携わってきて、光市の強みは人だと思っている。そしてその人が育んできた風土だと思う。これを本市の財産として位置づけられるとありがたいと思う。

●事務局

基本目標の1では、主には地域づくり、生涯学習、更には文化、スポーツ、人権、男女共同参画、こういった分野については基本目標1で整理をしている。基本目標2では教育や子育てで整理をしている。まず、基本目標1から、現状と課題、基本方針、施策展開の方針を文章で整理をしているので、よろしくお願いします。

●委員

8ページ、自治会の加入率が77.8%（2年度末）となっているが、これをどう捉えるか。私は問題点じゃないかと。4分の1も参加していないのか。断定することは出来ないが、自治会に参加しないというのは現実には地域のいろいろな問題点等に対して、共同して何とか解決しようという発想の無い人と言うと、非常に断定的になるが、非常に関心の薄い人。4分の1も自治会等に入っていないという部分をどう捉えていくのかを考えてもらいたい。これは地域の大事なことだし、各地区で、自治会をはじめ、新しく入って来た人に説明をし、入会を勧めているが、市の方は具体的な説明会というか、特に新しく団地ができる、あるいは新しく身内が帰ってくるなど、こうした人に対して本当に具体的な説明をしているのかなと。その辺が見えない。やはり地域の非常に大きな問題点、地域コミュニティが非常に大事、と言っているのはその通りだし、我々もそう思っているが、非常に悪い言いかたをすると、市の努力がやや見えない、というのが実感ではないか。

●事務局

市としても、この自治体への加入や地域自治を進めていかないといけないと考えている。しっかり自治会への加入を呼びかけていく施策も必要だと思っている。

●事務局

市として具体的に何をしているのか、全般的にすべてうちが把握しているわけではないが、こういう実態を見れば少しやり方が、もう少し足りないのかなというような気がする。

実際には戸籍のところで転入をされる方、転入者の方がいれば、そこで加入の案内をする。あと、例えば広報とかも配布しているが、自治会に加入されてない方にも広報は行くわけだが、そういう方から広報の依頼があれば、自治会に加入すれば、調査員さんを通じてお手元に行くといった案内を微力ではあるが、案内させていただいている。行政として自治会がコミュニティの最小単位であって、地域の一番の活動の源であることは理解十分している。そういった事も総合計画の中で少し触れる事が出来れば、また整理をして行きたいと思っている。改めてその辺りを少し整理させていただきたい。

●委員

自治会の活動は、年に清掃活動等ともう一回あるかないかぐらいで、ほとんど活動休止状態になっている。加入している事のメリットを感じない人が多いから、加入率が下がっていると思う。各自治体の方に活動丸投げに近いような形に多分なっていて、だからそういう状態になっているのと、やはり自治会の役員をされている方が年配の方が多くて、30代、40代の方ってほとんどいないような状態で、持続可能な地域コミュニティの形成というのは、若い世代にバトンを渡していかないと中々続いていかないと感じている。

●事務局

やはり世代の継承というのが必要になってくるのだと思う。若い世代の方に自治会に入ってもらい、自治会に入ったときのメリット、何か良い部分があれば勧誘が促進されるのかなと、そのあたりも市として何か協力出来ることをしっかりしてきたいと思った。

●委員

コミュニティ・スクールの取組をしている中では、地域とのつながり、地域力が不可欠。やはり学校の教員だけではなく、地域の人材、継承という話が出たが、光市を盛り上げてくれる人をどう作っていくかが本当重要だと、それが自治会の問題にもつながってくると思う。自治会のメリットの話があったが、自分の中では、東日本大震災が凄く残っていて、自治会とか、地域力があるところはやっぱり亡くなる方の率が低かったというのが出ている。やはり皆が声をかけあって、助け合った。そういうメリットがある。やはり自治会に入っていれば助けてもらえるという意味じゃなく、自治会に入ることは皆とつながることで、つながる事によって、なにか災害があった時も皆が助け合える。地域がつながるメリットを、市だけではなく、住民も含めてしっかり情報発信しながら共有する。その中で、自治会に入ることはつながりの第一歩だというメッセージを送る。そのあたりが必要ではないかと思った。

●事務局

この総合計画の中でつながることを重要視している。この「つながる」をキーワードとしながら、総合計画全体をお示し出来たらと思う。

●委員

メリットを主張していくことはすごく大事。一方で、自治会のデメリットが何なのかをしっかりと洗い出して、それをどれだけ改善するかが、おそらく自治会の加入につながるかと。地震のような緊急時や、高齢者の見守りという面でメリットは自治会としてはあるかもしれないが、若者からしたらおそらくデメリットのほうが大きく見えてしまっていると思う。そのデメリットをはっきりさせて、どう対処していくかが大事だと思う。

●委員

16 ページ、市民と行政の協働により課題解決を目指す「協働事業提案制度」等を有効に活用することなどが書いてあるが、市がどんな活動、やりたいこと、あるいはこういったことを実施する。そういったことについて住民側が意見を求める。確かに文章としては全部そういうところが書いてあるが、市がどのように情報を住民に提供し、住民からの反応を受け、またその事業を展開しようとしているのか、ここの仕組みが少し見えにくい。

市役所内の情報交流は非常によくできている。垣根がどんどん取り払われているのが分かる。では、その市のやろうとしていることについて住民から意見を求めるという内容については、会議を設けて意見を聞くとか、アンケートすることはあるが、それ以外に何かあるかという、あまりやっていないような気がする。

なぜそうかと言うと、地域コミュニティが全地区に完成し、連合自治会も全部できた。各地区の自主防災会も全部できた。できたけれども、それぞれから出てきたいろんな意見、これらを市がどのように取り上げているのか、あるいは問題点について、市がやろうとしていること、市民にお願いすること、市民から求めたいこと、こういった内容についてどこまで情報を提供しているのか。はっきり言ってあまり無い、と実感している。

そのあたりの部分がうまくできていないのではないかと。それを市長さんの色んな考え方とか、あるいは議会等、意見交換とかあるが、例えばこの間、市民対話集会在急遽中止になった、それに替わるものとしてまちづくりについての意見をくださいと急遽依頼が来た。それでいつまでかと聞いたら3週間後で、コミュニティは7千名もいるが、それらについても知らない人の意見聞いてとか、内容についてそういった情報を流してみよう、やはり全員が市役所みたいに機能していないので、情報提供もできない。だからそういったものを、もう少し期間をおいて計画的にすれば、もっと住民の意見が市の行政に反映できるものが作れるのではないかと。是非そういったものを考えていただきたい。

●事務局

広報・広聴活動というものにもつながってくるかと思う。確かに、色んな形で住民のみなさんの声を聞く活動はこれまでも制度としてはあるが、そうしたものが有機的に繋がっていない、そういうふうな事だろうと思う。広聴制度にしても常設のものは持っているが、そういったものがなかなか周知をされておらず、なかなか参画される方がいないというのも問題である。せっかく出していただいた意見が、こちらとしては回答したつもりでも、十分に伝わりきっていないというような問題もあろうかと思う。確かに難しい側面もあるが、一つ一つが機能するように努めてまいりたい。

●委員

「多文化共生社会の推進」のページで、主要な事業例を見ていると、語学的なサポートが多い印象を受けた。外国人の方が問題になってくることは、文化の違いの部分が大いのかと思う。そういった意味では、なぜこういった問題が起きてしまうのか、ごみ出し

の仕方、夜間に騒いでしまうとか、なぜそういうことを普通にしてしまうのか。日本ではタブーかもしれないが、その国では別に普通のことなのかもしれないというようなことを伝えられる機会、そういう機会を設けた上でちゃんとディスカッションしながらお互いを理解していくことが本当の多文化共生社会になるのかなと思う。そういった意味では文化交流のイベントを開いていくのも一つかなと思う。

●事務局

光市でも外国人住民の方が増えている傾向にある。お互い尊重しながら、そうした取組が市としてできればと思っている。多文化共生の事業は、新たに、昨年度から少し始めた部分がある。語学的なサポートが、まず第一歩というふうになると思う。

●委員

男女共同参画は、答えが無い。各家庭が全部違うので、お父さんは掃除とかして凄いなと言ったら、掃除が好き。男の子が小学校に入るのに、赤いランドセルが欲しいと。一般論では、皆さんの前では買ってほしいという人もいるが、人によっては、絶対嫌だと、絶対に黒かブルーとか、色々答えが無い。

●委員

一般的にはいいのではないかと言う事が、自分事になると…というところが凄く重要だと思った。市民の方々に啓発していく時に、自分事だったらどうですか、その時どう対応しますか、というロールプレイングを重ねておく事が、恐らく社会の絵を、男女共同参画とか、そういう意識を作っていく上で重要になるのかなと思った。そういった意味でいかに自分事につけて、そういった学習の機会を設けるのが大切になると思った。

●委員

例えば、阿部兄弟が金メダルを獲った時のテレビの表記を見た時、ハッと思った。「きょうだい」というのがひらがな表記だった。普通、漢字で書けば兄・弟。いよいよテレビも字幕スーパーのそこまで、要するに、考え始めたなど。だからまずそういう事から、まず理解する事が大事だと思う。男女共同参画社会や国際交流の事についても、まだ理解という部分が、そこまで行っていない。そこは理解した上で「そうは言っても」という所に行くと思うので。だからまさしく、人権教育だと思う。人権教育の中でまず正しい理解、そして自分事に捉えるというその2つの段階を経て、そういう対応というか実現に向かえると思う。

そこまで辿り着くには、議論、ディスカッションだと思う。そういう社会教育、学校教育をしていかないと。光市はそういう素地は、私はあると思う。人権教育、人権行政、施策、そして人権教育は光市としては長年の大きな流れだと、活かせるという期待がある。

●委員

その通りで、教育で理解した上で自分事があるのかなと思った時に、今回はどこまで行ったら正しい理解なのかというゴールが多分無いと思うので、そこをはっきりさせて次のステップかと思ったので…

●委員

ディスカッションしても、平行線でいつも終わってしまう…

●委員

平行線が実は大事で。平行線で終わったように見えても、でも必ず残っていて、そしていざ自分にそれが降りかかってきた時にその平行線で終わった事が活かせるというか、それが正しい理解とその自分事として捉えるのが同時進行なのだと思う。

●事務局

基本目標2の項について、ここからは、結婚・出産・子育てと、それから教育という辺り。何か思うところがあればぜひ、お願い出来たらと思う。

●委員

30代、40代の男女、結構結婚されない人が多いので、どうにか。

●委員

職場の30代や20代が、出会いが無いという話はしている。最近多いのは出会い系のマッチングアプリで、結婚されるという方が結構いた。多分出会おうとしても、地方に来ると、そのマッチングが中々無いと思うので、市内に特化した、それとも、山口県東部に特化した、良く分からないがそういうアプリなりそういうものがあったても良いのかと思う。

●事務局

光市としては、そういった出会いの創出といったところで、今までも事業を幾つか行っている。ただ、結婚したくない、という人も中にはいるため、あくまで結婚したいという希望を叶える為の施策として、出会いを作ると。

こういう施策は、今のところ、光市でもやっている。マッチングの話があったが、今年から山口県がマッチングアプリを活用した出会いの取組を始められたと聞いている。

●委員

自分たちと若い世代で、結婚・出産の年齢が随分変わってきていると感じている。確実に5才は違う。自分たちが25歳の感覚が、今は30歳だと思う。要するに、自分たちの頃

は、30歳までには結婚したいと思っている人が、結構多かったと思うが、今はそれが35歳ではないか。今の20代・30代の方々と接して感じる。と、考えた時に、35歳で結婚しても、その後、出産・子育てが出来る、そういう仕組みを用意しておくというのが必要かなと思う。今、本当に昔でいう高齢出産も医学の進歩で無事に出産出来るような状況になってきている。やはり高齢になれば妊娠しづらいというのは、当然、生理学的にそうだと思うので、そうするとやはり、不妊治療であるとか、また、高齢出産した場合の、その後の自分の人生であるとか、そういう辺りにフォローが出来るような施策が、今の若い世代の方々にあった出産・子育ての施策になるのではないかな。そういう時代の流れにあった施策というのが必要だと感じる。

●委員

市として今後の人口減少問題、人口推移をみる時に、地方は20代が一回減るのは仕方が無い事だとしていて、30代がどれだけ戻って来ているのかが、今後の、未来を考えた時に重要になってくる。光市は、継続的に推移を見た時に、30代がどれだけ戻って来ているのかをしっかりと見て、一度出て戻って来る人たちは子育てをするために戻って来ている人が多いので、その人たちに手厚い保障をしていく。それに加えて地元に残っている未婚の方々のフォローだと思うので、まずは一回県外に出ても戻ってきたくなるような環境作りが重要だと思う。

また、明らかに出会いの機会は増えている。マッチングアプリで、結婚する人は結構多い。そういった意味では、本当に結婚したいと思っていれば、意外に早く結婚出来る環境は整ってきていると思う。

●委員

戻ってこさせたいが、就職が無い。やっぱり大学を出たらそっちで就職する。

●事務局

子育て、教育、色々とお話をいただいているが、青少年の育成のあたりはいかがか。

●委員

私が関わっている事は何かと思うと、老人クラブのお世話、小学校との交流を十何年前からやっている。田植えやどろんこ会など、広くやっている。

コロナの時期だからこそ、学びと育ちについて書いてあるが、学びながらの育ちという部分が凄く必要だと思っている。この育ちという言葉は、具体的な事があるとよい。

●委員

43ページ、「未来につながる連携・協働教育の推進」で聞きたい。私が光市にびっくりしたのは学校関係、コミュニティ・スクールの活動が素晴らしいなど、これはほんとに全国

に誇れるものだなと。山口県も素晴らしいし、とりわけ光市が先端を行っていると感じている。今、子どもたちを本当に地域の宝だと、それを学校と先生と PTA と地域、この三本の柱でしっかりと支えて、しかも地域を巻き込んでの一大イベントとして過ごしている。これは本当に素晴らしい事だと思っている。昨年、コロナで初めて運動会が全部中止になった。その時に子どもたちがスローガンを「広げよう運動会で地域の輪」と、6年生が独自に考えた。それからもう一つ、応援メッセージ、これがあった。「地域の皆さん有難う。いつも優しい言葉かけ見守ってくれて有難う。コロナに負けず頑張ろう」これをみたら本当に涙が出るような感じがした。これは一例で、他の地域も色んな事をされているし、素晴らしいところがあると思うが、本当に日本に誇れる光市の自慢だと。ただ、そういう割には 99.9%全部ボランティア活動である。学校の教育だから、ボランティアは当たり前だ、地域がそういった事をやるのは当たり前だ、それもあるが、行政として、どう、ここをうまく守り育てていくのか、この事が先程から言っているように、小中一貫だとか、あるいは中学校云々だとか、色んな事を合わせて、本当に大事な部分であるし、これをしっかり盛り上げる活動、施策、これをぜひ進めていただきたい。

●事務局

ありがとうございました。

●委員

小中一貫教育で、光市のコミュニティ・スクールが全国的にも活発だという事は存じている。光高校の学校運営協議会に入っている関係で、高校も今、コミュニティ・スクールを作ったり始めているところ。高校になると県の管轄になり、こういう所に入れづらいところがあると思うが、中高の連携というようなところも盛り込んでいけたら良いと思った。結局人口減少に繋がってくるようになるが、将来戻ってきたいと思うかどうかが、高校生までの段階にどれだけ地域の自然や人々に触れてきたのかが影響するという研究成果が出ていたりする。そういった意味では、高校まで地元にいるうちにより多くの人や自然、地域に触れる機会を作っていく事が、今後の光市が持続的に発展していくために繋がると思う。

●事務局

ありがとうございました。今いただいた色々な貴重なご意見を計画にもり込んでいながら、一つの視点として取り組んでいけたらと思っている。138 ページ、基本目標 6 について、少しご意見をいただきたい。

●委員

デジタル化で、今、光市で何をしているのかを知れるといいかなと思っている。

●事務局

今、光市でデジタル化というと、こちらの方に記載しているが、やはりマイナンバーカードの普及の促進を図っていて、光市は県内でもかなり高い普及率になっている。その他にも、AIを活用して国民健康保険の勧奨、防災の方ではドローン協会と協定を結んで、ドローンを活用した防災など、色々な取組を少しずつ進めているところ。

●事務局

市の取組は、徐々に出来るところから色んな所にチャレンジしているところだが、現在の状況として、国の方ではデジタル改革、法改正をして、それが施行されて、国が色々重点取組事項を示している。

例えば、市の情報システムを全国的に標準化して全国同じ仕様の基幹システムを設ける事や、マイナンバーカードの普及促進、行政手続のオンライン化の促進。こういったものを重点的に進めていきなさいという事で、国が指針を出したので、今後はそういった事を、取り組んで行く事になる。そのうえでデジタルを使ってどのような行政サービス、市民サービスが出来るのかを考えて、色んな情報ツール、双方向のシステムであるとか、デジタルを使った行政の効率化など、あわせて検討していくのだろうと思う。

●委員

ありがとうございます。まずは内部から、というような印象で捉えさせていただいた。その一方で、市民の方々にお手伝いいただくという事も可能だと思っている。周南市で野良犬の通報アプリがある。別に野良犬じゃなくても良いのではないかというのが実際のところ。他の自治体では、市民の方が道路で傷んでいるところがあれば、その写真を撮って、写真と共にデータを送ると、今までは電話で道が壊れているよと伝えると、行政マンが現地を確認して、着工しましょうといったタイムラグがあったことが、写真送って貰えば、無駄な移動時間を省けたりするようなのも他の自治体の取組としてある。

行政が全て自分たちでやるのではなく、市民の支援、どちらかといえば支援者というような立場だと思うので、市民が中心になりながらそういったところを上手くサポート出来るような形で、行政システムのようなものと考えていけたら良いと思った。

●事務局

まさに道路の管理やごみの不法投棄など、職員だけでは中々管理しきれないことが現状にある。そうしたものが、いわゆるシステムの的に出来れば、行政も素早い対応ができる。今後色々検討していく必要があると、率直に感じている。

●委員

自分の中でこれまでの話がつながってきている。先程、話があったように、いったん光市の外に出ている人が多いが、子どもは光市で育てたいとか、若いうちは光市でなくて良

いけど、親になり、その後の人生は光市で送りたいと、そういう人が帰って来ている。

という事は、そういう風に思って光市を出て行けるように、時間限定だが、そこまでにいかに光市、光という場所に愛着を持たせる事が出来るか、というところにかかっていると思う。となると、まさしく教育だが、例えば、移住・定住の促進というところで、そういう教育と福祉の充実を図る事によって、そういう視点があると、前段からずっとこの計画が続いている中で、関係性というか一体的に、光市の一番の魅力は人なので、その人がずっと生まれてから死ぬまで光市でずっと生きていくという、そういう流れが見える計画にした方が、読んだときに一つ大きな流れがあるなと思える。

まず、一体的に流れが見えるようなものが、この計画に位置付けられると、どの分野で携わる人も、同じ方向を向いて、生きていけると思うので、その辺りが位置付けられると有難いなと、漠然とした意見で申し訳ないが、そういうふう感じた。

●事務局

ありがとうございました。こちらに第7章の分野別計画だけの抜粋でお示ししている。計画全体は、もう少しボリュームあるものになっており、今、「人づくり」というところで、当然、繋がりという部分、最初にでたかと思うが、計画全体をまたお示しする中では、流れを持ったものとしてお示し出来たらと思っている。

●委員

今、田舎でさえ、人の繋がりが薄い。何か物事をやると、来られる人は来られる、来ない人は全く顔を見せられない。どこに原因があるかなと考えてほしい。出る人は若い時から行事に参加してくれる。地区の体育の役員や何かをやられて、でられる。だから、今、高齢者になって、それを出そうと思ったら中々難しい。だから小学校時代、子どもの頃から、ボランティアという事に関して、その地域の人たちと交流をやるような、行事、勉強、そういう風な事で地元の魅力を、まず子どもたちから順番に教育をするのが良いと思う。

今年から小学校の3年生以上はタブレットが配布されて、教育を熱心にやられているが、危惧するのは、会話やコミュニケーション術じゃないが、どうなるのかと。

我々の若い時は、ランドセルは家に帰ったら放ったらかして、皆と遊ぶのが第一だった。だから今でもおーいと言えば何人かすぐ、そこに居る者なら集まる。だからその辺の事も踏まえて、なにか、幼児教育から大人、色んなこの年代別の生涯学習が必要じゃないか。

最近になって、行事をやる度に、高齢者でさえも出て来ない。その方はもう何年かしたら引き籠りになるのではかと心配もある。

3 その他

○ 事務局から今後の予定等について連絡

- ・次回開催は8月30日（月）18時30分から予定している。

終了 20時05分